

色彩と感情について (3)

稲浪正充*・栗山智子**・安部美恵子***

Masamitsu INANAMI, Tomoko KURIYAMA and Mieko ABE
Emotion and Color (3)

[キーワード：色彩、感情的意味、ぬり絵、幼児、老令者]

I はじめに

われわれは、3年前から色彩と感情のテーマにとり組んできた。本論文では2つの調査を試みた。先行研究(稲浪, 野口¹⁾)で、色の重さ, 暗さ, 冷たさを追及したが、ここではこれら3種類の感情的意味を含んだ10種類の感情的意味を調べた。また、先行研究(稲浪, 小松原²⁾)で大学生に行った笑い顔, 怒り顔, 泣き顔のぬり絵から喜び, 怒り, 悲しみの色を調査したが、ここでは笑い顔のぬり絵に限り、就学前幼児と老令者を対象に調査した。

II 調査-1-

1 方法

島根大学の学生100人(男子50人, 女子50人)を対象に、白, 赤, 黄, 緑, 青, 紫, 桃色, 茶, 橙, 黄緑, 灰色, 黒の12色について、次のマイナスとプラスに対立する10種類のことばの5段階評定を依頼した。

マイナス		プラス
冷たい	—	熱い
暗い	—	明るい
重い	—	軽い
醜い	—	美しい
悲しい	—	嬉しい
遠い	—	近い

弱い	—	強い
静か	—	騒々しい
悪い	—	良い
男らしい	—	女らしい

それぞれの対立することばについて、それぞれの色としてみると、マイナスに「そうである」(第1段階)のか、マイナスに「や、そうである」(第2段階)のか、「どちらでもない」(第3段階)のか、プラスに「や、そうである」(第4段階)のか、プラスに「そうである」(第5段階)のかの評定を依頼し、回収した100枚の調査紙から各色の5段階の百分率を求めた。

2 結果

1) 12色の5段階評定

12色の5段階評定の調査結果は表1のようになった。

(ア) 白

明確であるのは、冷たい, 明るい, 軽い, 美しい, 静か, 良い, 女らしいの7項目であった。そして、や、弱いイメージを持つ。悲しい-嬉しい, 遠い-近い(以下、悲嬉, 遠近と記す)については、どちらともいえない。弱強については、もっと明確に弱いと出るのではないかと考えていたが、強いと感じる人もいた。よく似ているのは、暗明, 重軽, 醜美, 悪良だった。これら4項目と静騒が逆になった。

(イ) 赤

明確であるのは、熱い, 明るい, 美しい, 嬉しい, 強

* 島根大学教育学部障害児研究室

** 北陽小学校

*** 松江青葉病院

表1 a 色の感情的意味-5段階評定

白						
マイナス	a	b	c	d	e	プラス
冷たい	13	51	32	4	0	熱い
暗い	0	0	15	39	46	明るい
重い	1	2	22	26	49	軽い
醜い	0	0	12	30	58	美しい
悲しい	3	18	47	20	12	嬉しい
遠い	12	28	40	16	4	近い
弱い	24	37	23	8	8	強い
静か	59	28	11	2	0	騒がしい
悪い	0	0	17	27	56	良い
男らしい	1	2	49	33	15	女らしい
黄						
マイナス	a	b	c	d	e	プラス
冷たい	0	5	26	59	10	熱い
暗い	1	0	8	34	57	明るい
重い	0	4	16	43	37	軽い
醜い	0	3	44	34	19	美しい
悲しい	0	2	23	42	33	嬉しい
遠い	0	10	49	26	15	近い
弱い	3	26	38	25	8	強い
静か	2	9	35	30	24	騒がしい
悪い	2	6	59	25	8	良い
男らしい	0	3	79	13	5	女らしい
青						
マイナス	a	b	c	d	e	プラス
冷たい	32	46	18	4	0	熱い
暗い	2	31	43	16	8	明るい
重い	7	35	41	12	5	軽い
醜い	0	2	37	35	26	美しい
悲しい	17	45	22	11	5	嬉しい
遠い	21	37	33	4	5	近い
弱い	2	21	43	28	6	強い
静か	32	48	19	1	0	騒がしい
悪い	1	3	60	26	10	良い
男らしい	15	43	39	3	0	女らしい

赤						
マイナス	a	b	c	d	e	プラス
冷たい	0	0	1	14	85	熱い
暗い	0	1	9	30	60	明るい
重い	10	32	44	10	4	軽い
醜い	1	5	44	24	26	美しい
悲しい	4	3	35	30	28	嬉しい
遠い	1	2	55	25	18	近い
弱い	0	0	5	32	63	強い
静か	0	1	7	48	44	騒がしい
悪い	3	16	58	14	9	良い
男らしい	6	7	56	21	10	女らしい
緑						
マイナス	a	b	c	d	e	プラス
冷たい	2	22	61	13	2	熱い
暗い	4	26	37	25	8	明るい
重い	7	36	41	11	5	軽い
醜い	1	7	39	30	23	美しい
悲しい	1	18	54	19	8	嬉しい
遠い	6	30	49	8	7	近い
弱い	0	8	56	30	6	強い
静か	24	40	29	6	1	騒がしい
悪い	0	7	47	35	11	良い
男らしい	2	27	64	6	1	女らしい
紫						
マイナス	a	b	c	d	e	プラス
冷たい	14	40	36	7	3	熱い
暗い	20	49	19	8	4	明るい
重い	27	50	18	4	1	軽い
醜い	11	23	36	16	14	美しい
悲しい	13	49	31	4	3	嬉しい
遠い	10	33	47	8	2	近い
弱い	0	5	45	35	15	強い
静か	7	21	35	23	1	騒がしい
悪い	10	37	41	5	6	良い
男らしい	2	17	61	15	5	女らしい

a : 第1段階「そうである」 b : 第2段階「や、そうである」 c : 第3段階「どちらでもない」
d : 第4段階「や、そうである」 e : 第5段階「そうである」

表1 b 色の感情的意味-5段階評定

桃色						
マイナス	a	b	c	d	e	プラス
冷たい	1	4	33	58	4	熱い
暗い	0	0	5	47	48	明るい
重い	0	1	11	40	47	軽い
醜い	1	2	24	49	24	美しい
悲しい	0	0	15	45	40	嬉しい
遠い	2	7	51	29	11	近い
弱い	14	42	35	9	0	強い
静か	2	12	41	28	15	騒がしい
悪い	1	3	52	30	14	良い
男らしい	0	0	7	26	67	女らしい
橙						
マイナス	a	b	c	d	e	プラス
冷たい	0	1	8	61	30	熱い
暗い	0	1	2	45	52	明るい
重い	1	9	24	42	24	軽い
醜い	0	2	36	45	17	美しい
悲しい	0	1	21	47	31	嬉しい
遠い	0	1	44	42	13	近い
弱い	1	7	44	30	16	強い
静か	0	1	26	52	21	騒がしい
悪い	0	1	53	31	15	良い
男らしい	0	2	57	36	5	女らしい
灰色						
マイナス	a	b	c	d	e	プラス
冷たい	43	49	7	1	0	熱い
暗い	45	51	3	1	0	明るい
重い	35	48	11	4	2	軽い
醜い	20	34	37	6	3	美しい
悲しい	37	49	14	0	0	嬉しい
遠い	19	40	35	5	1	近い
弱い	12	43	36	6	3	強い
静か	33	40	23	2	1	騒がしい
悪い	9	45	43	2	1	良い
男らしい	3	30	66	1	0	女らしい

茶						
マイナス	a	b	c	d	e	プラス
冷たい	2	25	50	14	0	熱い
暗い	16	62	20	2	0	明るい
重い	20	58	19	3	0	軽い
醜い	7	43	44	6	0	美しい
悲しい	4	36	55	3	1	嬉しい
遠い	2	30	50	15	3	近い
弱い	0	10	54	29	7	強い
静か	9	27	46	17	1	騒がしい
悪い	0	20	75	3	2	良い
男らしい	3	33	61	3	0	女らしい
黄緑						
マイナス	a	b	c	d	e	プラス
冷たい	1	19	61	17	2	熱い
暗い	0	1	14	52	33	明るい
重い	0	1	16	56	27	軽い
醜い	0	1	38	42	19	美しい
悲しい	0	2	46	33	19	嬉しい
遠い	2	15	43	33	7	近い
弱い	2	37	48	12	1	強い
静か	9	41	34	14	2	騒がしい
悪い	1	1	57	30	11	良い
男らしい	1	10	77	12	0	女らしい
黒						
マイナス	a	b	c	d	e	プラス
冷たい	50	21	28	0	1	熱い
暗い	86	11	3	0	0	明るい
重い	84	14	2	0	0	軽い
醜い	30	21	40	3	6	美しい
悲しい	47	29	23	1	0	嬉しい
遠い	36	9	43	5	7	近い
弱い	7	2	18	22	51	強い
静か	42	16	35	4	3	騒がしい
悪い	37	25	34	1	3	良い
男らしい	30	20	50	0	0	女らしい

い、騒がしいの6項目である。これらのことばは殆どの人の持つ赤のイメージといえる。そして、やゝ重いようである。悪良については、どちらともいえない。遠近、男女はどちらでもないと感じる人が多いが、やゝ近く、やゝ女らしいようである。

暗明と弱強がよく似通っていた。暗さ、弱さを赤としてとらえるとき、とらえ方が同じであるといえる。

(ウ) 黄

明確であるのは、熱い、明るい、軽い、美しい、嬉しい、騒がしいの6項目である。しかし、冷熱では、やゝ熱いと感じる人が殆どであり、同じ熱いでも赤の熱さとは違いのあることが解る。第3段階の中間の回答が多かったのは、遠近、悪良、男女であった。それらは、どちらかといえば、近い、良い、女らしいとなった。また、弱強については、全体にばらついていて、弱いとも強いともいえない。

(エ) 緑

緑は安定した色であり、片寄らない色と考えていた。結果は、やはり、どの項目も第3段階が多かった。冷熱、暗明、悲嬉がその典型的な形を示した。重軽、醜美、静騒の3項目では、第3段階と答えた者は比較的少なく、明確ではないが、重い、美しい、静かといえる。また、遠近、弱強、悪良、男女の4項目では、第3段階が比較的多く、遠い、強い、良い、男らしい傾向を示した。

(オ) 青

はっきりと両端(第1段階か第5段階)を選ぶ者が少なく、第2、第4段階を選ぶ者が多かった。それでも、冷たい、美しい、悲しい、遠い、静か、良い、男らしいといえる。暗明、重軽、弱強の3項目については、いずれにも入らない中間の色となっている。

(カ) 紫

青に似て、第2、第4段階を選ぶ者が多い。それでもいえたのは、冷たい、暗い、重い、悲しいの4項目だった。第3段階を選ぶ者が多いながら、いえそうなのは遠い、強い、悪いの3項目であった。醜美、静騒については、全体的にばらついている。紫を醜いと感じる人と美しいと感じる人が同数ぐらいいて、両面性があると考えられる。

静騒についても、美醜に似た結果となった。男女についてはどちらともいえないようである。

(キ) 桃色

確実にいえるのは、女らしいという項目である。その他、いえそうなのは、熱い、明るい、軽い、美しい、嬉しいであった。熱さをみると、赤の熱さでなく、黄に似て、やゝ熱く感じている。その次にいえそうなのは、

弱い、良い、近い、騒がしいだった。

(ク) 茶

全体的に、第3段階が多かった。緑と同様に、安定した色と思われる。5段階の両端を選ぶ者が少ないが、暗明と重軽では、やゝ暗い、やゝ重いが目立って多かった。

次に、いえそうであるのは、醜い、悲しい、男らしいであった。残りの5項目については、どちらかと云えば、冷たく、遠く、強く、静かで、悪いとなった。

(ケ) 橙

はっきりいえるのは、明るいである。第2、第4段階と感じる者の多かったのは、熱い、軽い、美しい、嬉しい、騒がしいであった。第3段階が多かったのは、遠近、弱強、悪良、男女の4項目であったが、それぞれ、近い、強い、良い、女らしいといえよう。

(コ) 黄緑

第3段階の回答が目立った。その中でも、冷熱、男女については正規分布を示している。醜美、悲嬉、悪良は、美しい、嬉しい、良い傾向を示した。遠近、弱強、静騒については、ばらつき、どちらかといえば、近い、弱い、静かとなった。暗明、重軽は第3段階が比較的少なく、明るく、軽くなった。

(カ) 灰色

明確に出たのは、冷たい、暗い、重い、悲しいということであった。次にいえそうであるのは、醜い、遠い、弱い、静か、悪いであった。遠い、弱い、悪いについては、「やゝ、そうである」と感じている人が多い。男女の項目は第3段階が多かった。続いて、やゝ男らしいとなったが、灰色を男女どちらでもないと感じている者が意外に多かった。

(シ) 黒

どの項目も、第2、第3、第4段階という回答が少ないという結果になった。明確にいえるのは、暗い、重いということである。そして、冷たい、醜い、悲しい、遠い、強い、静か、悪い、男らしい傾向を示した。

2) 色の感情的意味の数量化

ここでは、このような10項目について5段階評定を行った12色について、第1段階を1点、第2段階を2点、第3段階を3点、第4段階を4点、第5段階を5点とした。例えば、暗明では、暗いを1点、やゝ暗いを2点、どちらでもないを3点、やゝ明るいを4点、明るいを5点とした。それぞれの色の平均値を求めたところ、表2のようになった。黒の暗明は1.17点となっている。

表2 平均値

	白	赤	黄	緑	青	紫	桃色	茶	橙	黄緑	灰色	黒
冷 - 熱	2.27	4.84	3.74	2.91	1.94	2.45	3.60	2.85	4.20	3.00	1.66	1.81
暗 - 明	4.31	4.49	4.46	3.07	2.97	2.27	4.43	2.08	4.48	4.17	1.60	1.17
重 - 軽	4.20	2.66	4.17	2.71	2.73	2.02	4.36	2.05	3.79	4.09	1.90	1.18
醜 - 美	4.46	3.69	3.69	3.67	3.85	2.99	3.93	2.49	3.77	3.79	2.38	2.34
悲 - 嬉	3.20	3.75	4.06	3.15	2.42	2.35	4.25	2.64	4.08	3.69	1.77	1.78
遠 - 近	2.72	3.58	3.46	2.80	2.35	2.59	3.40	2.87	3.67	3.28	2.29	2.38
弱 - 強	2.39	4.58	3.09	3.34	3.15	3.60	2.39	3.33	3.59	2.73	3.45	4.08
静 - 騒	1.56	4.35	3.65	2.20	1.89	3.16	3.48	2.74	3.93	2.59	2.02	2.10
悪 - 良	4.39	3.10	3.31	3.50	3.41	2.63	3.53	2.87	3.60	3.49	2.41	2.08
男 - 女	3.59	3.22	3.20	2.77	2.30	3.04	4.60	2.64	3.44	3.00	2.65	2.20

第1段階を1点、第2段階を2点、第3段階を3点、第4段階を4点、第5段階を5点として、それぞれの色の平均値を計算した。

3 考察

1) 中間の色

ここでは中間の色のイメージをとり上げる。無彩色として、黒と白を混ぜたときの灰色、有彩色として、黄と青を混ぜた緑、青と赤を混ぜた紫、赤と黄を混ぜた橙をとり出し、それぞれの色とその中間の色の感情的意味を比較した(図1)。

(ア) 灰色

10項目全体についてみると、灰色と黒のイメージが近い。黒、灰色と白が対比的になっているのが、暗明、重軽、悪良である。一方、これら3色が同じイメージでとらえられているのが、冷熱、遠近、弱強、静騒、男女といえるのではない。残りの悲嬉は、黒、灰色がどちらかという悲しみに、白は「どちらでもない」～喜びの傾向を示した。

(イ) 緑

緑が青と赤と黄の中間としてイメージされているのが、冷熱、悲嬉、遠近である。青と緑が同じイメージでとらえられ、5段階目で黄と対比的となるのが、暗明、重軽、静騒であり、3色が同じイメージでとらえられているのが醜美、弱強、悪良、男女である。

(ウ) 紫

赤、紫、青の3種類の色が同じイメージでとらえられているのが、醜美、遠近、悪良、男女の4項目。赤と青が同じイメージでとらえられているのが重軽(見方によって、醜美もこの中に入れることができる)。紫と青が同じイメージでとらえられているのが暗明、冷熱、悲嬉、弱強(見方によって、遠近もこの中に入れることができる)。紫がイメージのなかで赤、青の中間になっている

のは静騒の1項目だけだった。

(エ) 橙

黄と橙は似たイメージでとらえられている。赤も黄橙に比較的似ている。ただ、冷熱、弱強では、第5段階で黄橙に比べ、赤を選ぶ者が多かった。

2) 12色を並べる

先行研究(稲浪、野口)では、本調査で尋ねた12色に水色を加えた13色を、重い色から軽い色へ、暗い色から明るい色へ、冷たい色から暖かい色へと順番に並べるように依頼した。水色を抜いた調査結果を本調査の平均値に基づいた12色の配列と比較すると、表3のようになった。

このように調査方法が異なっても、平均値として計算された色の配列はよく似たものになっている。

本調査で、10種類の対立することをプラスとマイナスに分けたとき、弱い-強いをマイナスプラスとしたが、黒がプラスのイメージとなったのは、10項目のうちこの項目だけだった。黒をマイナスのイメージで統一するために、関係を逆転させ、強い-弱いをマイナスプラスとすることにした。

こうして、冷熱、暗明、重軽、醜美、悲嬉、遠近、静騒、悪良、男女について、平均値の1~2.5までをマイナス、2.5~3.5までを中性、3.5~5までをプラス、弱強だけは1~2.5までをプラス、2.51~3.5までを中性、3.51~5までをマイナスとして、12色を、黒、灰色、白の無彩色と、赤、橙、黄、茶、黄緑、桃色、青、緑、紫の有彩色に分け、図2、表4に示した。

12色の感情的意味をまとめよう。

(1) 無彩色のうち、黒は10項目のすべてでマイナスイ

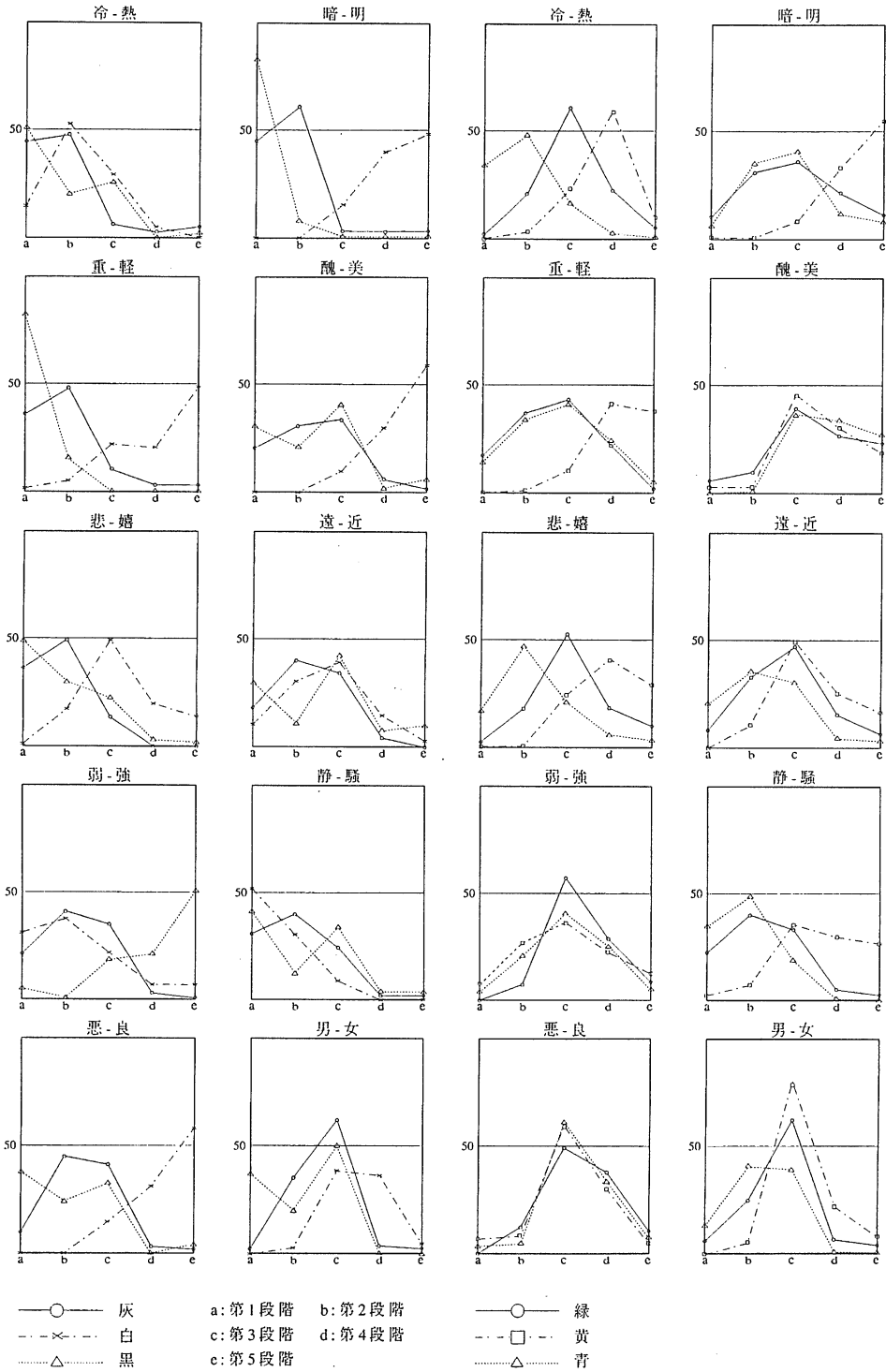


図1 a 灰色の感情的意味
— 白、黒との比較

図1 b 緑の感情的意味
— 黄、青との比較

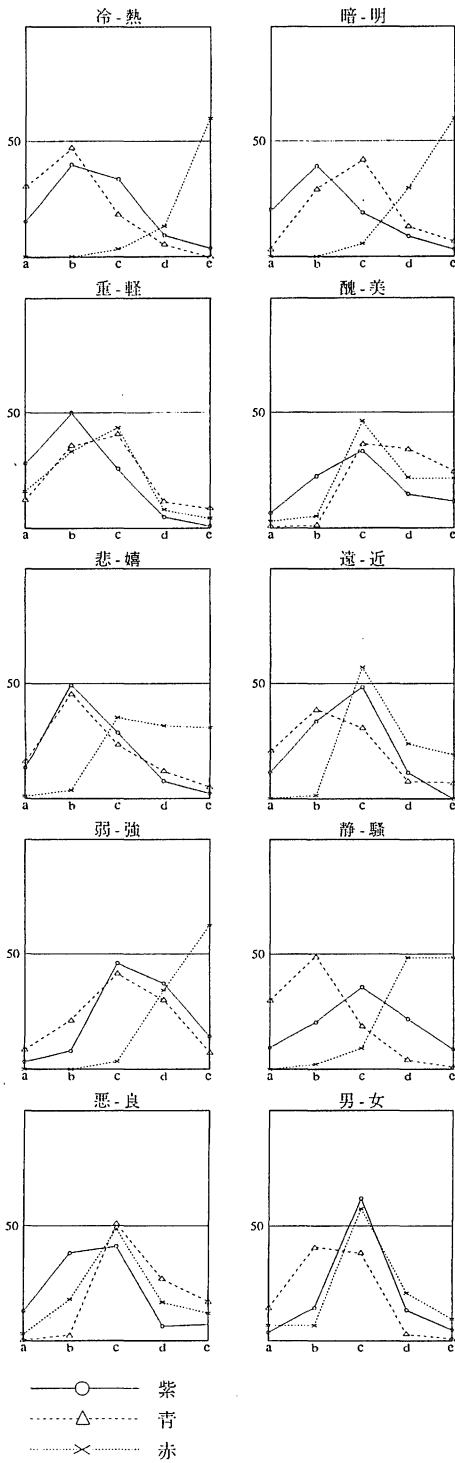


図1c 紫の感情的意味
—青、赤との比較

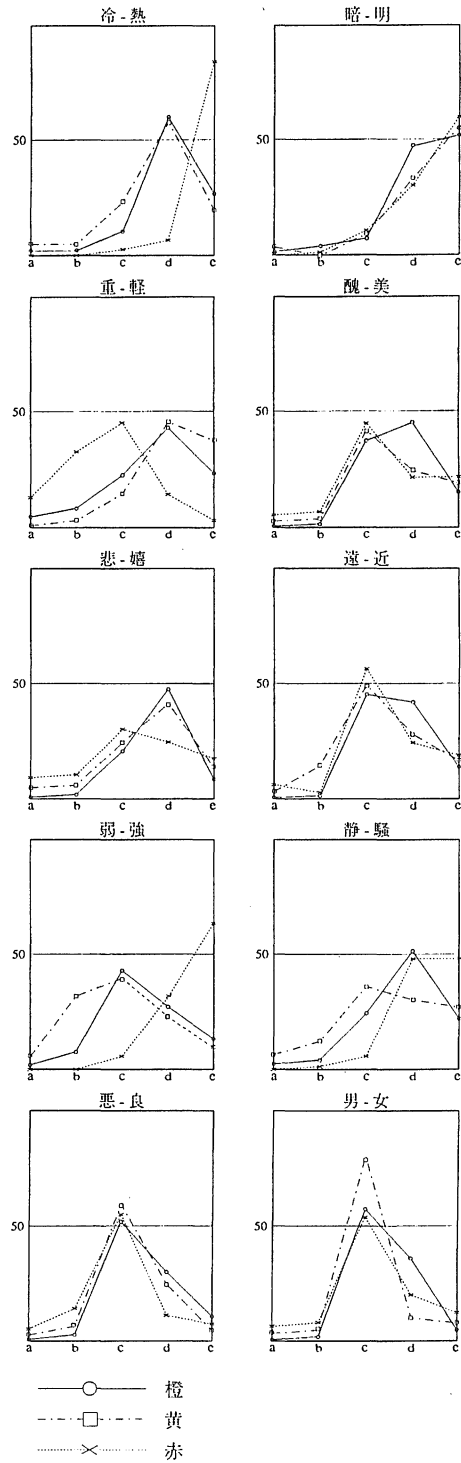
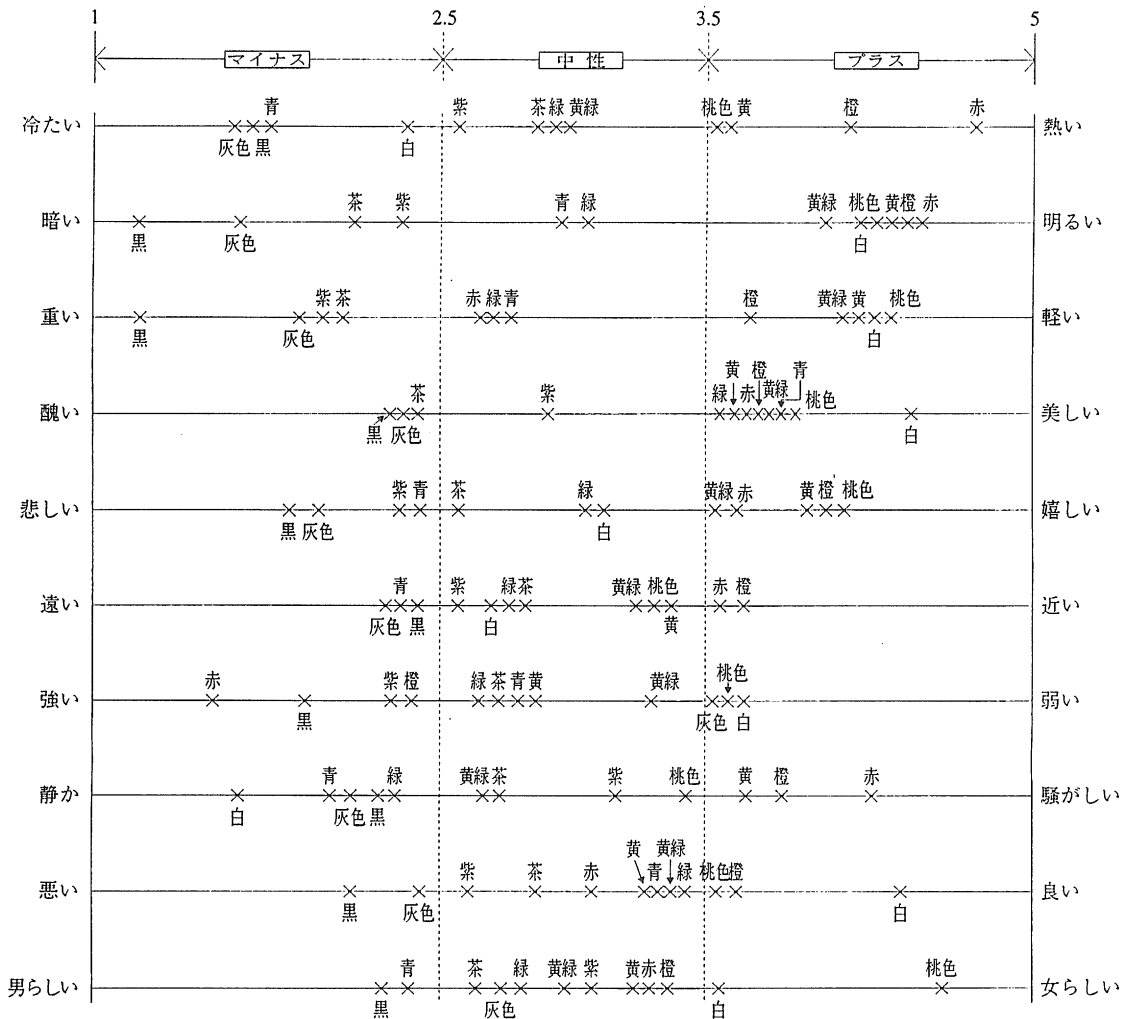


図1d 橙の感情的意味
—赤、黄との比較

表3 冷-熱、重-軽、暗-明について12色の配列

順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
冷-熱	本調査	灰色	黒	青	白	紫	茶	緑	黄緑	桃色	黄	橙	赤
	稲浪・野口	青/黒		灰色	白	紫	茶	緑	黄緑	桃色	黄	橙	赤
暗-明	本調査	黒	灰色	茶	紫	青	緑	黄緑	白	桃色	黄	橙	赤
	稲浪・野口	黒	灰色	茶	紫	青	緑	赤	橙	黄緑	桃色	黄	白
重-軽	本調査	黒	灰色	紫	茶	赤	緑	青	橙	黄緑	黄	白	桃色
	稲浪・野口	黒	灰色	茶/紫		青	緑	赤	橙	黄緑	黄	桃色	白

本調査では冷たい-熱い、前調査（稲浪・野口）では冷たい-暖かいで調査した。



10項目のうち、強い-弱いだけが、5~3.51がマイナス、3.5~2.51が中性、2.5~1がプラスとなっている。

図 2 12色の配列

表4 12色の感情的意味の分類

		無 彩 色			有 彩 色			松岡	金子
		マイナス	中性	プラス	マイナス	中 性	プ ラ ス		
第 1 群	暗 - 明	黒(1.2) 灰(1.6)		白(4.3)	茶(2.1) 紫(2.3)	青(3.0) 緑(3.1)	黄緑(4.1) 桃色(4.4) 黄(4.5) 橙(4.5) 赤(4.5)		A
	重 - 軽	黒(1.2) 灰(1.9)		白(4.2)	紫(2.0) 茶(2.1)	赤(2.7) 緑(2.7) 青(2.7)	橙(3.8) 黄緑(4.1) 黄(4.2) 桃色(4.4)	P	P
	醜 - 美	黒(2.3) 灰(2.4)		白(4.5)	茶(2.5)	紫(3.0)	緑(3.7) 赤(3.7) 黄(3.7) 橙(3.8) 黄緑(3.8) 青(3.4) 桃色(3.9)		E
	悪 - 良	黒(2.1)		白(4.4)		紫(2.6) 茶(2.9) 赤(3.1) 黄(3.3) 青(3.4) 黄緑(3.5) 緑(3.5)	桃色(3.5) 橙(3.6)	E	
	強 - 弱	黒(4.1)		灰(2.5) 白(2.4)	赤(4.6) 紫(3.6) 橙(3.6)	緑(3.3) 茶(3.3) 青(3.2) 黄(3.1) 黄緑(2.7)	桃色(2.4)	P	P
第 2 群	冷 - 熱	灰(1.7) 黒(1.8) 白(2.3)			青(1.9)	紫(2.5) 茶(2.9) 緑(2.9) 黄緑(3.0)	桃色(3.6) 黄(3.7) 橙(4.2) 赤(4.8)	A	A
	静 - 騒	白(1.6) 灰(2.0) 黒(2.1)			青(1.9) 緑(2.2)	黄緑(2.6) 茶(2.7) 紫(3.2) 桃色(3.5)	黄(3.7) 橙(3.9) 赤(4.4)	A	A
	遠 - 近	灰(2.3) 黒(2.4)	白(2.7)		青(2.4)	紫(2.6) 緑(2.8) 茶(2.9) 黄緑(3.3) 桃色(3.4) 黄(3.5)	赤(3.6) 橙(3.7)	A	
	悲 - 嬉	灰(1.8) 黒(1.8)	白(3.2)		紫(2.4) 青(2.4)	茶(2.6) 緑(3.2)	黄緑(3.7) 赤(3.8) 黄(4.1) 橙(4.1) 桃色(4.3)	E	
	男 - 女	黒(2.2)	灰(2.7)	白(3.6)	青(2.3)	茶(2.6) 緑(2.8) 黄緑(3.0) 紫(3.0) 黄(3.2) 赤(3.2) 橙(3.4)	桃色(4.0)		

E : 評価性 A : 活動性 P : 力量性

メージでとらえられている。強弱, 男女を除いて, 灰色もマイナスイメージでとらえられている(灰色は強弱ではプラス, 男女では中性となる)。一方, 白は暗明, 重軽, 醜美, 悪良, 強弱, 男女ではプラス, 冷熱, 静騒では黒, 灰色と同様にマイナス, 遠近, 悲嬉では中性としてとらえられている。

(2) 有彩色のうち, 黄, 橙, 桃色は明るく, 暖かであり, 多くの項目でプラスにとらえられている。赤もこの中に加えてよい。ただ, 赤は暖かではなく熱い。また, 赤は強弱では黒いとともにマイナスとしてとらえられている。

(3) 黄緑には, プラスイメージ(黄とが多い)でとらえられる項目と, 中性に入る項目(緑とが多い)がある。

(4) 緑は安定している。静騒だけが静かさに傾いているがその他は中性に入っている。

(5) 緑とともに安定した色の茶は, 10項目のことでみると, 紫とともにマイナスイメージとなり, 暗い,

重い, 醜い色となる。紫は暗い, 重い, 強い, 悲しい色となる。

(6) 悲嬉を除いて, 青は紫と異なった項目でマイナスにとらえられている。青は冷たい, 静かな, 遠い, 悲しい, 男らしい色である。そして, それは美しい色である。

(7) これら10項目を, 無彩色では黒と白が対立し, 有彩色では茶と紫か, 茶か紫がマイナスにとらえられる暗明, 重軽, 醜美, 悪良, 強弱の5項目と, 無彩色では黒と白が同じマイナスか, または白が中性となり(男女だけプラスとなっている), 有彩色では青がマイナスとなる冷熱, 静騒, 遠近, 悲嬉, 男女の5項目の2グループに分けることができるのではないか。

従来の因子分析の研究から, 色の感情的意味は美醜に代表される評価性, 静騒に代表される活動性, 重軽に代表される力量性の3因子としてとらえられている(日本色彩学会³⁾)。松岡⁴⁾は悪良, 悲嬉を評価性, 冷熱, 静騒, 遠近を活動性, 重軽, 強弱を力量性に入れ, 金子⁵⁾

は醜美を評価性、暗明、冷熱、静騒を活動性、重軽、強弱を力量性に入れているのだが、今後、因子分析を用い、これらの研究と比較したいと考えている。

III 調査-2-

1 方法

本調査では就学前の保育園児とある病院に入院している老令者について笑顔のぬり絵の色を調査した。

松江市内の3才児22名(男:9名,女:13名),4才児28名(男:16名,女:12名),5才児32名(男:21名,女:11名)とある病院に入院している65才以上の老令者30名(男:12名,女:18名)について、先行研究(稲浪,小松原)で大学生に行った図3のようなぬり絵の調査を行った。

保育園児には、白、赤、黄、緑、青、紫、桃色、茶、橙、黄緑、灰色、黒のクレパスで自由に着色させた。老令者にはこの12色の色鉛筆で色を塗ってもらった。

2 結果

1) 保育園児の笑顔のぬり絵

i) 3才児

3才児のぬり絵の顔、衣服、背景の色は、表5のようになった。3才児については人数で表わした。

(ア) 顔:一般的な顔の色である橙を使った子どもは1人だけであった。その他は、白、赤、桃色など明るい色

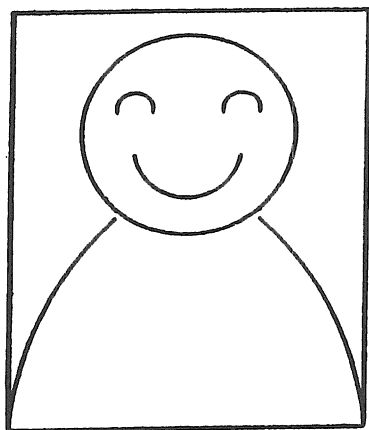


図3 笑顔のぬり絵

を使っていた。顔に色を塗らず、目や口をなぞったり、ふちどったりしている子どもが多い。また、たくさんの色を使っている子どもが目立った。

(イ) 衣服:桃色や赤を使っている。1色で塗るのではなく、2色や3色、虹のように7色を塗る子もいた。男女に関係なく、2色以上で塗った子が全体の半数もいた。

(ウ) 背景:背景に色を塗っている子は1人だけだった。

(エ) 全体の印象:全体的にみて、まだ色に馴染んでいない。顔に色を塗らないのは、顔に色を感じていないのかもしれない。まして、背景には全く目がとどいていない、と考えてよいのではないか。3才児に興味のあるのは衣服であり、明るい色を使っていた。

ii) 4才児

4才児のぬり絵の顔、衣服、背景の色は、表6のようになった。4才児の子どもは百分率で示した。

(ア) 顔:女兒の90%が橙を選んでいった。全体でみても、使用した色はばらつかず、橙、青、茶などであった。色を塗らず、目や口をふちどった子は全体の25%もあり、また、2色以上使った子も約18%いた。

(イ) 衣服:男女で使った色は殆ど同じである、赤や桃色、青や緑といった慣れた色を使ったようだ。特に女の子の25%が桃色で塗っていた。そして、全体の50%の子は2色以上のいろいろな色を塗っていた。虹のように7色を使った子や、12色全部を使った子がいた。

(ウ) 背景:全体で多かったのは、青、桃色だった。なにも塗っていない子が7%であり、3才児と比べかなり減っていた。しかし、色を塗らずふちどっている子と合わせると約20%であった。また、2色以上を塗っている子も約20%と多かった。

(エ) 全体の印象:女の子の90%(全体の約50%)が、顔の色を橙で塗っていたことから、顔の色=橙という概念が生まれていると考えられる。しかし、男の子の44%は色を塗らずふちどっており、この子たちはまだ顔に色を感じていないのかもしれない。

衣服はたくさんの色を塗ったり、塗る色に巾があったりと、子どもが一番力を入れるところであることは、4才児も3才児と変わらない。使われた色は男女に関係なく慣れた色だった。茶や灰色、黒は目に入っていないようである。背景についても、衣服と同じ色が使われている。ただし、背景に色を塗らなかった(ふちどった)子も多く、背景にまで目が届かない子が4才児にもかなりいることがわかる。

iii) 5才児

5才児のぬり絵の顔、衣服、背景の色は、表7のようになった。4才児と同様に百分率で示した。

表5 3才児の笑顔のぬり絵

顔

	白	赤	黄	緑	青	紫	桃色	茶	橙	黄緑	灰色	黒	その他
全体(22)	2	3	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	13
男(9)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	8
女	2	3	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	5

その他	ふちどり	2色以上
全体	6	7
男	3	5
女	3	2

衣服

	白	赤	黄	緑	青	紫	桃色	茶	橙	黄緑	灰色	黒	その他
全体	0	4	1	1	0	0	4	0	0	0	0	1	12
男	0	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	5
女	0	3	0	1	0	0	2	0	0	0	0	1	7

その他	ふちどり	2色以上
全体	0	12
男	0	5
女	0	7

背景

	2色以上
女	1

単位 人

表6 4才児の笑顔のぬり絵

顔

	白	赤	黄	緑	青	紫	桃色	茶	橙	黄緑	灰色	黒	その他
全体(28)	0	0	0	0	7.1	0	0	3.6	46.4	0	0	0	42.9
男(16)	0	0	0	0	6.3	0	0	6.3	12.5	0	0	0	75
女	0	0	0	0	8.3	0	0	0	91.7	0	0	0	0

その他	ふちどり	2色以上
全体	25	17.9
男	43.8	31.3
女	0	0

衣服

	白	赤	黄	緑	青	紫	桃色	茶	橙	黄緑	灰色	黒	その他
全体	0	10.7	0	7.1	7.1	0	17.9	0	3.6	3.6	0	0	50
男	0	12.5	0	6.3	6.3	0	12.5	0	6.3	6.3	0	0	50
女	0	8.3	0	8.3	8.3	0	25	0	0	0	0	0	50

その他	ふちどり	2色以上
全体	0	50
男	0	50
女	0	50

背景

	白	赤	黄	緑	青	紫	桃色	茶	橙	黄緑	灰色	黒	その他
全体	0	3.6	0	3.6	21.4	3.6	14.3	0	0	7.1	0	3.6	42.9
男	0	0	0	6.3	18.8	6.3	6.3	0	0	0	0	6.3	56.3
女	0	8.3	0	0	25	0	25	0	0	16.7	0	0	25

その他	ぬらない	ふちどり	2色以上
全体	7.1	14.3	21.4
男	6.3	25	25
女	8.3	0	16.7

単位 %

表7 5才児の笑顔のぬり絵

顔

	白	赤	黄	緑	青	紫	桃色	茶	橙	黄緑	灰色	黒	その他
全体(32)	0	0	6.3	6.3	6.3	0	0	0	71.9	0	3.1	3.1	3.1
男(21)	0	0	9.5	4.8	9.5	0	0	0	61.9	0	4.8	4.8	4.8
女	0	0	0	9.1	0	0	0	0	90.9	0	0	0	0

その他	ぬらない
全体	3.1
男	4.8
女	0

衣服

	白	赤	黄	緑	青	紫	桃色	茶	橙	黄緑	灰色	黒	その他
全体	0	9.4	0	9.4	28.1	3.1	0	0	6.3	3.1	0	0	40.6
男	0	14.3	0	9.5	28.6	0	0	0	9.5	0	0	0	38.1
女	0	0	0	9.1	27.3	9.1	0	0	0	9.1	0	0	45.5

その他	2色以上	2色
全体	25	15.6
男	28.6	9.5
女	18.2	27.3

背景

	白	赤	黄	緑	青	紫	桃色	茶	橙	黄緑	灰色	黒	その他
全体	0	6.3	15.6	3.1	25	3.1	9.4	0	9.4	0	0	0	28.1
男	0	0	19	4.8	33.3	0	0	0	14.3	0	0	0	28.6
女	0	18.2	9.1	0	9.1	9.1	27.3	0	0	0	0	0	27.3

その他	ぬらない	2色以上	2色
全体	12.5	12.5	3.1
男	19	9.5	0
女	0	18.2	9.1

単位 %

表8 老人の笑顔のぬり絵

顔														その他 2色以上		
	白	赤	黄	緑	青	紫	桃色	茶	橙	黄緑	灰色	黒	その他	全体	男	女
全体(30)	12.5	5	15	2.5	5	2.5	7.5	2.5	20	2.5	0	12.5	12.5	12.5	10.5	10.5
男(12)	5.3	5.3	21	0	0	0	10.5	5.3	26.3	5.3	0	10.5	10.5	5.3	10.5	14.3
女	19	4.8	9.5	4.8	9.5	4.8	4.8	0	14.3	0	0	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3

衣服														その他 2色以上		
	白	赤	黄	緑	青	紫	桃色	茶	橙	黄緑	灰色	黒	その他	全体	男	女
全体	0	5	5	12.5	25	2.5	12.5	5	5	12.5	2.5	2.5	10	10	5.3	14.3
男	0	0	10.5	10.5	26.3	5.3	10.5	5.3	0	15.8	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	14.3
女	0	9.5	0	14.3	23.8	0	14.3	4.8	9.5	9.5	0	0	14.3	14.3	14.3	14.3

背景														その他 2色		
	白	赤	黄	緑	青	紫	桃色	茶	橙	黄緑	灰色	黒	その他	全体	男	女
全体	0	7.5	7.5	20	10	10	7.5	7.5	2.5	17.5	0	7.5	2.5	2.5	0	4.8
男	0	10.5	5.3	31.6	0	15.8	10.5	5.3	0	15.8	0	5.3	0	0	0	4.8
女	0	4.8	9.5	9.5	19	4.8	4.8	9.5	4.8	19	0	9.5	4.8	4.8	4.8	4.8

単位 %

(ア) 顔：全体の70%、女の子の90%が橙を使った。あとは、黄、緑、青で塗った子が少しづついた。男の子の中に、灰色、黒を使った子も少しいた。色を塗らない子は約3%と少なかった。

(イ) 衣服：男の子も女の子も青で塗った子が多かった。いろいろな色で塗った子や、衣服を半分に区切って2色に塗るのは女の子に多かった。3才児、4才児で多かった桃色を塗る子はいなかった。また、赤を使ったのは男の子だけだった。

(ウ) 背景：いろいろな色を使って塗っている。多かったのは、男の子では青、女の子では桃色、赤であった。なにも塗らない子は全体の約12%と、3才児、4才児に比べかなり減っていた。

(エ) 全体の印象：子どもたちは顔や背景に色を着けている。顔にも色を感じ、背景にも目が届くようになったのではないかと。また、顔に橙を使った子が70%以上いたことから、顔は橙色ということが定着してきたと考えられる。背景にも色を塗る子が多く、5才児にとって背景も興味ある空間になっている。多く使われてた色は、男の子は、青、黄、女の子は桃色、赤というふうで、それぞれ男らしい色、女らしい色を選んでた。

2) 老令者の笑顔のぬり絵

老令者(65才以上)のぬり絵の顔、衣服、背景の色は、表8のようになった。各色の数値は百分率で示した。

(ア) 顔：いろいろな色が使われた。橙だけに集中するのではなく、笑顔を意識してか、黄、桃色も多く使われていた。しかし、逆に、笑顔に似つかわしくない黒を使った人も12.5%と多かった。

(イ) 衣服：男女とも多かったのが、青、緑、桃色、黄

緑であった。ここでも、少数であるが、灰色、黒を使った人がいた。

(ウ) 背景：全体にばらついてた。多い順にあげると、緑、黄緑、青、紫となった。どちらかというと寒色で、落ち着いた色を多くの人が選んだといえる。また、黒を使う者がここでも7.5%いた。

(エ) 全体の印象：全体的にいろいろな色が使われていた。顔は笑顔ということを考えてか、明るい色で塗った者も多かったが、衣服や背景には安定した色や落ち着いた色を塗る者が多かった。特に、緑がよく使われている。老令者にとって、使いやすい色と思われる。笑顔の絵と思っても、無意識のうちに、落ち着いた色を選ぶのであろうか。

3. 考察

1) 幼児の笑顔のぬり絵の発達的特徴、性差

3, 4, 5才児を通してみてわかったのは、だんだん顔に色を塗るようになり、その色が橙に定着してゆくということである。背景にしても、加齢とともに色を塗らない子が減った。さて、このように、顔や背景に色を塗らなかつたり、ふちどりだけだつたりするのは、ほとんど男の子だった。男の子より女の子の方が色に興味を持ち、色彩感覚が豊かなのであろう。

子どもが一番興味をもち、子どもの目のゆくのは衣服である。衣服の色をみると、3, 4, 5才児で使う色は似通っている。主に、赤、緑、青、橙、黄緑であった。3, 4才児で使う桃色は5才児では使われなかった。また、黄がほとんど使われていない。

表9 大学生の笑顔のぬり絵

顔													
	白	赤	黄	緑	青	紫	桃色	茶	橙	黄緑	灰色	黒	その他
全体(90)	14.6	6.7	27	1.1	1.1	0	5.6	2.2	38.2	0	1.1	0	2.2
男(40)	10.3	5.1	33.3	0	2.6	0	5.1	2.6	35.9	0	0	0	5.1
女	18	8	22	2	0	0	6	2	40	0	2	0	0

衣服													
	白	赤	黄	緑	青	紫	桃色	茶	橙	黄緑	灰色	黒	その他
全体	5.6	11.2	11.2	9	14.6	2.2	23.6	1.1	11.2	7.9	0	0	2.2
男	7.7	12.8	10.3	12.8	20.5	2.6	12.8	2.6	7.7	7.7	0	0	2.6
女	4	10	12	6	10	2	32	0	14	8	0	0	2

背景													
	白	赤	黄	緑	青	紫	桃色	茶	橙	黄緑	灰色	黒	その他
全体	6.7	2.2	25.8	3.4	21.3	2.2	16.9	1.1	12.4	3.4	0	0	4.5
男	12.8	2.6	23.1	2.6	33.3	5.1	7.7	0	7.7	0	0	0	5.1
女	2	2	28	4	12	0	24	2	16	6	0	0	4

単位 %

表10a 男子学生の笑顔のぬり絵 一個々のものー

番号	冷	熱	暗	明	重	軽	醜	美	悲	嬉	遠	近	弱	強	静	騒	悪	良	男	女
101		3.5		3.4		2.7		3.2		3.2		3.1		4.0		3.4		2.8		2.9
102		3.4		4.0		3.2		3.7		3.4		3.1		3.6		3.3		3.3		2.9
103		3.6		4.0		3.6		3.7		3.8		3.3		3.3		3.3		3.5		3.1
104		3.7		4.0		3.1		3.8		3.4		3.2		3.8		3.4		3.4		3.0
105		3.3		4.0		3.6		3.8		3.5		3.2		3.3		3.2		3.4		3.0
106		2.8		2.5		3.5		3.8		3.2		2.9		2.1		2.8		3.4		2.8
107		2.8		3.9		3.6		4.0		3.2		2.9		3.0		2.5		3.8		3.1
108		2.8		3.9		3.6		4.0		3.2		2.9		3.0		2.5		3.8		3.1
109		3.2		4.1		3.5		4.0		3.4		3.0		3.1		2.8		3.6		3.4
110		3.3		4.0		3.6		4.2		3.6		3.1		3.0		3.1		3.5		3.5
111		3.6		4.0		3.6		3.8		3.8		3.3		3.1		3.2		3.5		3.6
112		3.9		4.5		4.1		3.8		4.3		3.5		3.0		3.7		3.5		3.8
113		3.2		4.4		4.2		4.0		3.8		3.2		2.6		2.9		3.7		3.8
114		3.1		4.0		3.8		3.8		3.6		3.1		2.9		3.0		3.4		3.4
115		3.3		3.1		3.2		3.2		3.0		3.1		4.0		3.4		2.9		3.0
116		2.9		3.5		3.2		3.7		3.2		2.9		3.2		2.6		3.4		2.8
117		3.7		4.0		3.1		3.8		3.4		3.2		3.8		3.4		3.4		3.0
118		3.3		4.1		3.6		3.9		3.5		3.1		3.1		3.0		3.6		3.4
119		3.6		4.4		3.7		4.0		2.4		3.3		3.4		3.2		3.6		3.3
120		3.1		4.0		3.8		3.8		3.6		3.1		2.9		3.0		3.4		3.4
121		3.4		3.5		3.2		3.4		3.5		3.2		3.3		3.1		3.3		3.0
122		3.5		4.0		3.2		3.7		3.4		3.1		3.6		3.3		3.3		2.9
123		2.9		3.5		3.2		3.7		3.2		2.9		3.2		2.6		3.4		2.8
124		4.3		4.5		3.5		3.7		4.0		3.6		3.8		4.0		3.3		3.3
125		2.9		3.5		3.2		3.7		3.2		2.9		3.2		2.6		3.4		2.8
126		3.4		4.1		3.8		3.8		3.7		3.2		3.1		3.2		3.5		3.4
127		3.2		4.4		4.2		4.0		3.8		3.2		2.6		2.9		3.7		3.8
128		4.0		4.0		3.1		3.7		3.7		3.4		3.8		3.5		3.4		3.1
129		3.3		4.0		3.6		3.8		2.2		3.2		3.3		3.2		3.4		3.0
130		3.3		3.7		3.1		4.0		3.1		2.9		3.4		2.5		3.6		3.0

表10b 女子学生の笑顔のぬり絵 一個々のもの一

番号	冷熱	暗明	重軽	醜美	悲嬉	遠近	弱強	静騒	悪良	男女
201	3.6	4.0	3.6	3.7	3.8	3.3	3.3	3.3	3.6	3.1
202	2.9	3.5	3.2	3.7	3.2	2.9	3.2	2.6	3.4	2.8
203	3.6	4.1	3.7	4.0	3.7	3.2	3.1	3.1	3.7	3.8
204	3.7	4.4	4.3	3.8	4.2	3.4	2.7	3.6	3.4	3.9
205	4.2	4.5	4.1	3.8	4.1	3.5	3.0	3.7	3.5	3.7
206	3.8	4.5	4.1	3.8	4.1	3.5	3.0	3.7	3.5	3.7
207	3.8	4.5	4.1	3.8	4.1	3.5	3.0	3.7	3.5	3.7
208	3.6	4.1	3.7	4.0	3.7	3.2	3.1	3.1	3.7	3.8
209	3.2	4.0	3.6	3.9	3.6	3.1	3.0	3.2	3.5	3.4
210	3.8	4.5	4.1	3.8	4.1	3.5	3.0	3.7	3.5	3.7
211	3.8	4.5	4.1	3.8	4.1	3.5	3.0	3.7	3.5	3.7
212	3.0	3.9	3.5	3.8	3.4	3.1	3.2	2.8	3.3	2.9
213	3.2	4.0	3.6	3.9	3.6	3.1	3.0	3.1	3.5	3.4
214	3.8	4.5	4.1	3.8	4.1	3.5	3.0	3.7	3.5	3.7
215	4.2	4.5	3.6	3.8	4.0	3.6	3.5	3.9	3.4	3.8
216	3.3	4.0	3.6	3.8	3.5	3.2	3.3	3.2	3.4	3.0
217	4.2	4.5	3.6	3.8	4.0	3.6	3.5	3.9	3.4	3.9
218	3.6	4.4	4.0	3.8	3.9	3.5	3.1	3.4	3.5	3.2
219	3.8	4.5	4.1	3.8	4.1	3.5	3.0	3.7	3.5	3.7
220	3.4	4.4	4.1	4.0	3.8	3.3	3.0	2.9	3.7	3.4
221	3.3	4.0	3.6	3.8	3.5	3.2	3.3	3.2	3.4	3.0
222	3.0	4.3	4.2	4.0	3.7	3.2	2.7	2.6	3.7	3.3
223	3.0	3.7	3.3	3.7	3.2	3.0	3.2	2.9	3.5	3.4
224	3.3	3.6	3.4	3.4	3.5	3.2	3.3	3.3	3.1	3.4
225	3.6	4.4	3.8	4.0	3.8	3.4	3.0	3.3	3.7	3.7
226	3.5	4.0	3.7	3.7	3.7	3.3	3.2	3.1	3.5	3.1
227	3.8	4.5	4.1	3.8	4.1	3.5	3.0	3.7	3.5	3.7
228	3.8	4.5	4.1	3.8	4.1	3.5	3.0	3.7	3.5	3.7
229	3.6	3.8	3.2	3.5	3.6	3.3	3.5	3.5	3.1	3.3
230	3.6	3.7	3.3	3.3	3.6	3.3	3.3	3.4	3.3	3.1

2) 幼児, 若者, 老令者の笑顔の色

先行研究(稲浪, 小松原)で調べた大学生のぬり絵は, 表9のようである。本調査の幼児, 老令者のものに加えて比較しよう。

(ア) 顔: 3才児は顔に色があると感じていない。やがて顔は橙色という概念は子どもたちに定着してゆく。そして, 大学生, 老人では笑顔を考慮して顔の色を選ぶ。大学生では40%, 老人では20%が橙を使ったが, 5才児に比べ減っている。笑顔の嬉しさを黄で表現する者が多い。大学生, 老人では塗る色に巾がでてきている。老令者で黒を使う人がいた。

(イ) 衣服: 幼児にとって興味のあるのは衣服である。顔や背景に比べ, 衣服ではいろいろな色を使ったり, 変わった塗り方をしたり, 子どもが楽しんで塗ったことが伝わってくる。桃色, 赤, 青, 緑といった色が主に使わ

れ, 「笑顔だから」というより, 自分の好きな色を塗ったのではないか(この絵が笑顔を表わしていることは2才の水準でわかっている。筆者の1人が経験したが, ある2才児に笑顔のよい受持ちの保育がこの絵を見せたとき, その子は保育の名前をよんだ。また, 泣き顔の絵をみた別の2才児は「〇〇ちゃん」とよく泣く女の子の名前をよんだ)。大学生になると桃色が多く, あとは, 青, 赤, 橙, 緑など同じくらい使っていた。老人でも似たような結果になったが, 違う点は灰色や黒を使う人のいることである。

(ウ) 背景: 幼児にとって, 興味のゆきにくいところである。3才児は背景に目を向けていると考えにくい。しかし, 次第に色をつける子がふえている。青と桃色が多く, しかも, 男の子は青, 女の子は桃色と赤に集中している。これも, 自分の好きな色だったり, 男=青, 女=

表10c 高齢者の笑顔のぬり絵 一個々のもの一

性	番号	冷熱	暗明	重軽	醜美	悲嬉	遠近	弱強	静騒	悪良	男女
男	301	2.9	3.1	2.9	3.4	3.1	2.9	3.2	2.6	3.3	2.7
	302	3.5	4.4	3.6	3.7	3.8	3.4	3.5	3.5	3.3	3.1
	303	2.9	3.2	2.8	3.5	3.0	2.9	3.4	3.0	3.2	2.9
	304	3.3	3.7	3.0	3.5	3.4	3.2	3.8	3.7	3.0	3.2
	305	2.9	3.5	3.2	3.7	3.2	2.9	3.2	2.6	3.4	2.8
	306	2.9	3.7	3.4	3.8	3.3	3.0	3.1	2.6	3.4	2.8
	307	3.8	4.0	3.2	3.7	3.7	3.3	3.7	3.4	3.3	3.1
	308	3.1	3.6	3.4	3.5	3.4	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1
	309	2.7	2.8	2.8	3.1	3.0	2.9	3.2	2.8	2.8	3.4
	310	2.4	2.1	1.9	3.0	2.5	2.6	3.7	2.2	2.8	2.5
	311	2.3	1.8	2.0	2.4	2.2	2.6	2.9	2.4	2.6	2.6
	312	3.2	3.0	2.6	3.2	3.1	3.0	3.5	4.2	2.9	3.1
女	401	3.6	4.0	3.6	3.7	3.8	3.3	3.3	3.3	3.5	3.1
	402	2.8	3.9	3.7	3.9	3.5	3.0	2.8	2.7	3.5	3.3
	403	3.5	4.0	3.2	3.7	3.4	3.1	3.3	3.3	3.3	2.9
	404	3.2	4.0	3.6	3.9	3.6	3.1	3.0	3.1	3.5	3.4
	405	3.0	2.8	2.9	3.2	2.8	2.8	3.9	3.0	2.8	2.8
	406	2.8	3.3	3.2	3.4	3.2	3.0	3.1	2.7	3.0	3.3
	407	3.3	4.3	4.2	3.9	4.0	3.3	2.6	3.0	3.5	3.8
	408	3.0	3.9	3.5	3.8	3.4	3.1	3.2	2.8	3.5	2.9
	409	3.6	4.4	4.1	3.8	4.0	3.5	3.0	3.4	3.5	3.6
	410	2.5	2.5	2.5	2.9	2.6	2.8	3.0	2.7	2.9	2.8
	411	3.1	3.3	2.7	3.4	3.0	2.9	3.7	3.0	3.0	2.7
	412	3.2	3.2	2.8	3.4	3.1	3.0	3.6	3.0	3.1	2.0
	413	3.7	3.5	2.8	3.4	3.4	3.3	3.7	3.3	3.3	3.0
	414	3.2	3.3	2.7	4.2	3.0	3.0	3.6	3.2	3.1	2.9
	415	3.1	3.4	3.0	3.5	3.2	3.0	3.4	2.9	3.2	2.9
	416	2.9	2.9	2.3	3.4	2.8	2.8	3.8	2.6	3.0	2.6
417	3.1	3.4	3.0	3.5	3.2	3.0	3.3	3.0	3.2	3.1	
418	2.9	3.2	3.0	3.5	3.1	3.0	3.3	2.9	3.2	3.1	

表11 平均値 一笑顔のぬり絵一

	人数	冷熱	暗明	重軽	醜美	悲嬉	遠近	弱強	静騒	悪良	男女	
大	全体	60	3.46	4.05	3.62	3.78	3.60	3.23	3.19	3.23	3.46	3.33
学	男	30	3.34	3.90	3.48	3.78	3.41	3.14	3.25	3.09	3.44	3.18
	女	30	3.57	4.19	3.76	3.78	3.79	3.33	3.13	3.36	3.47	3.47
老	全体	30	3.08	3.40	2.95	3.50	3.22	3.02	3.33	2.90	3.05	3.01
者	男	12	2.99	3.24	2.90	3.39	3.14	2.98	3.36	3.01	3.09	2.94
	女	18	3.12	3.54	2.99	3.57	3.28	3.06	3.26	2.83	3.03	3.06

赤(桃色)という概念が出来つゝある現れではないのか。

大学生では、黄、青、桃色、橙が多かった。さわやかな青を除いて、明るい色が多かった。笑顔を意識してのことだろう。それに比べると、老令者では、黄緑、緑が多かった。笑顔の背景に落ち着いた色を塗る人が多いようである。

3) むり絵の感情的意味の数量化

ここでは、大学生と老令者の笑顔のむり絵の感情的意味を数量化してみた。

大学生の笑顔のむり絵は、先行研究(稲浪, 小松原)で収集したむり絵から、任意に男女各30名の計60名のもので選んだ。老令者の笑顔のむり絵は本調査で集めた男性12名, 女性18名の計30名のもを用いた。

本論文の表2で、12色の対立する10項目のことは、冷-熱、暗-明などのマイナス(1点)からプラス(5点)までの色の5段階評定を行い平均値を計算したが、ここではひとりひとりがむり絵に用いた個々の色の全部の平均値を個々の人のむり絵の数値とした。例えば、ある人が笑顔のむり絵(顔、衣服、背景を含めて)を赤、黄、青を使って仕上げた場合、その人の冷熱点を、 $4.84+3.74+1.94 \div 3$ として計算した(表10)。そして、その合

計の平均値を全体の数値とした(表11)。

全体の平均値で、年令の違い、性差を比較するとき、醜美(大学生の男女は同値)、弱強(これは強弱と逆転させた方が妥当であることが本調査から推定できた)を除いた8項目——冷熱、暗明、重軽、悲嬉、遠近、静騒、悪良、男女——では、老令者より大学生、男性より女性が高い数値=プラスへの傾向を示した。

引用文献

- 1) 稲浪正充, 野口明紀: 色彩と感情について(2). 島根大学教育学部紀要(人文, 社会科学), 27(1); 11-26, 1993.
- 2) 稲浪正充, 小松原美和: 色彩と感情について. 島根大学教育学部紀要(人文, 社会科学), 26; 39-56, 1992.
- 3) 日本色彩学会; 色彩科学事典. 朝倉書店, 東京, 1991. P.32.
- 4) 松岡武; 色彩とパーソナリティ. 金子書房, 東京, 1986. P.61.
- 5) 金子隆芳: 色彩の心理学. 岩波書店, 東京, 1992. P.187-188.